活動ピックアップ！

長岡 地域 Nagaoka

学校の垣根を超えて、みんなでスウィング！

長岡ジャズキッズ

社会音楽教育団体として2004年設立。2014年から約９年の活動休止後、少子化や教員の働き方改革により、学校に吹奏楽部がない子どもたちに音楽を楽しんでほしいと2023年5月に復活。週２回の練習では、小学生～高校生までの子どもたちが学校の垣根を越えて集まっています。９月の市民活動フェスタでは、明るくハッピーなジャズをお届けすることができ、ご来場者の方からはアンコールの声をいただきました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 長岡 みんなのSDGs

美化活動が我らのサードプレイス

特定非営利活動法人 緑うるおう栃尾を育む会

栃尾地域の美しい景観や雁木などの伝統文化の継承を目的に活動。住民の方々と一緒になって植栽や山道整備を行い、誰もが住みやすいやさしいまちづくりに取り組んでいます。定年を迎えた20名弱のメンバーが、降雪期や雨天時を除く毎日、公共空間の整備・美化を実施。この活動は景観の保全に寄与することはもちろんのこと、作業前後にメンバー間で交わされる歓談が、私たちの第三の居場所として大切な時間となっています。

市民活動

虎の巻

研究テーマ

補助金申請に必要な「公益性」の視点

より詳しく知りたい方はこちら！

補助金申請する際に求められる「公益性」。自分たちでは「公益的≒社会・地域のためになる！」だと思っているのに、行政側からはなかなか良い反応が得られないことも…。それは、行政側が補助金で後押ししたいと考える「公益性」とギャップがあることが原因です。補助金申請では、自分のやりたい企画と、補助金を出す側の考える「公益性」のギャップを埋めるような視点を盛り込んで企画を考えましょう。

01 不特定多数に開かれているか？

地域のため、社会のためにと思っても、その対象となる人や、地域が限られているケースは多々あります。広く開かれた事業にするために、会場や日時、広報の方法、定員数などで工夫をしましょう。

02 社会課題の解決につながるか？

その事業はどんな社会課題に向き合っていますか？ニュースや社会性、時流を意識しましょう。設定した社会課題が、行政側の課題感と一致していると応援してもらいやすいですよ。

03 地域や関係団体への波及効果はあるか？

事業を行うことを通じて、会員や連携先、財源が増えるなど団体の成長につながっているか？また、事業をすることで、地域や関係団体にもメリットがあるか？をアピールしましょう。

04 独自性のある事業か？

行政側は、「同じような事業はすべて補助しなければ」という公平性の観点があります。既に一般的に行われている企画や、定例的に開催されるイベントは対象になりにくいため、違いや、独自性を意識しましょう。

センターからのお知らせ

活動紹介・作品展示におススメ！

協働センターの壁面展示

協働センターのロビーには無料で利用できる非営利団体の活動発表用の展示スペースがあります。使い方はいろいろ！展示用備品のレンタルもできます。サークルの作品展示や、活動紹介などにいかがですか？

展示期間 2週間以内

利用申込

協働センター窓口または電話でお申込みください。
・❶～❸は展示予定日の6カ月前、❹は3カ月前より予約受付
・個人の利用はできません

展示スペース

❶ 正面壁：幅5m80cm×高さ1m70cm
❷ 協働ルーム脇壁：幅6m50cm×高さ2m50cm
❸ BCホール脇壁：幅6m×高さ1m75cm
❹ 第3協働ルームガラス面

発行

ながおか市民協働センター

〒940-0062
長岡市大手通1丁目4番地10
シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F
Tel . 0258-39-2020
Mail . contact@nagaokakyodo.net

知る、つながる 好きになる らこって
つながる ラジオ
市民活動のポータルサイト コライト

配布場所 長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。

らこって

Racotte

知る、つながる、好きになる
ながおか市民活動情報誌

2023
12
vol. 132

寄付、はじめの一歩

特集
フードバンクながおか
川口きずな館
サンタ・プロジェクト・ながおか

NAGAOKA PLAYERS
能登 昭美さん

活動ピックアップ
長岡ジャズキッズ

長岡みんなのSDGs
特定非営利活動法人 緑うるおう栃尾を育む会

ながおか市民協働センター

寄付、はじめの一歩

最近、皆さんは寄付や募金をしましたか。毎年12月は「欲しい未来へ、寄付を贈ろう。」を合言葉に、全国規模で寄付の啓発キャンペーン「寄付月間」が行われます。日本ファンドレイジング協会が発行した「寄付白書2021」によると、2020年に日本で寄付した人の割合は44.1%。「お金を寄付するというのは生々しい」「寄付したお金が何に使われるのか不安」という考えから、寄付を躊躇する人も少なくないようです。そんな方におすすめなのが、物を寄付するという方法。物であれば用途が限定されているため、「何に使われるのか」という不安を抱くこともありません。今月号では、誰でも気軽に寄付ができる活動をご紹介します。参加方法も掲載していますので、ご興味をもった方はぜひ参加してみてください。

2022年に、サンタ・プロジェクト・ながおかのメンバーが日赤病院に、集まった本を届けに行った際の一枚。

不要になったものを寄付する

物を寄付するという方法の中でも、特に気軽にできるのは不要になったものを必要としている誰かへ贈ることではないでしょうか。贈る人は物を処分しなくて済み、贈られた人は必要なものが手に入り、環境にもやさしい三拍子そろった方法です。

食べ物を寄付する ～フードバンクながおか～

お歳暮でもらったそうめんや買いすぎたレトルト食品など、食べきれずに困ったことはありませんか。一般家庭や生産者、企業から食品を集め、必要としている家庭や子ども食堂に配布する活動を長岡市で展開しているのが「フードバンクながおか」です。不要になった食品を集め、必要な人たちに渡す活動は「フードドライブ」と呼ばれ、食品の寄付は、社会福祉センター トモシアや各支所などで常時受け付けているほか、フードドライブが行われているイベントでも受け付けています。

フードバンクに集まった食品を必要としている方に配達するための作業は、ボランティアの方が一緒に行っています。

参加方法

不要になった食品を、フードドライブの常設会場かイベントへお持ちください。受け付けている食品の条件や常設会場の詳細は、QRよりご覧ください。

フードバンクながおかのHP

服やおもちゃを寄付する ～川口きずな館～

着なくなった洋服や遊ばなくなったおもちゃ、絵本があるというご家庭もあるのではないでしょうか。そんな方におすすめなのが、中越大震災のメモリアル施設である「川口きずな館」が毎月不定期で開催している「おさがり企画」です。この企画は、不要になった服やおもちゃ、絵本を持ち寄り、希望する方に無料で譲るというもの。不用品は、年齢、性別問わず、どなたでも持ち込むことができます。「定期的に施設を訪れることで、人と人とが会うきっかけになるように」という想いから、あえて常設ではなくイベントとして開催。もしかしたら、イベントへの参加をきっかけに知り合いが増えるかも。

参加方法

不要になった服やおもちゃ、絵本を、おさがり企画開催日にきずな館までお持ちください。開催日は、QRよりご覧ください。

川口きずな館Facebookページ

おさがり企画実施中の様子。通常は、年齢・性別問わず開催していますが、子どもに限定して開催することもあるそう。

買って寄付する

次にご紹介するのは、自分で物を選んで買って寄付するという方法。贈る相手が、自分の好きなものをうれしそうに受け取ってくれる姿を想像すると、選ぶのが楽しくなりますね。

本を寄付する ～サンタ・プロジェクト・ながおか～

子どもの頃に心待ちにしていたサンタクロースに、あなたもなれるかもしれません。「サンタ・プロジェクト・ながおか」は、クリスマスを病院で過ごす子どもたちやひとり親世帯の子どもたちに、自分が選んだ本を贈るというプロジェクトです。参加者は、開催書店で本を贈る子どもの年齢と性別を決め、贈りたい本を購入します。レジで、サンタクロースとしてメッセージカードを書き、書店に預けると、クリスマスの日に対象の子どもたちに届けられるという仕組みです。

参加方法

2023年の開催期間は、11月26日(日)～12月11日(月)です。詳細は、QRよりご覧ください。

コライト「サンタ・プロジェクト・ながおか2023」のページ

いかがでしたか。寄付は、共感する活動にメンバーやボランティアとして関われない場合に、応援したい気持ちを送る手段のひとつでもある一方、「いきなりお金を寄付するのはちょっと…」とハードルの高さを感じる方が多いのも事実。そんなときは、物にあなたの気持ちを込めて贈ってみませんか。

寄付を受け付けている他の団体を知りたい方は、こちらをご覧ください。

コライト「協働マッチングリスト2023」のページ

NAGAOKA PLAYERS

ウワサのあの人にインタビュー！

能登 昭美（あきみ） さん（38歳）

てらどまり若者会議～波音（はね）～／寺泊コミュニティセンター主事

1985年長岡市寺泊生まれ。てらどまり若者会議～波音～での活動のほか、市内外問わず自然や歴史に関係した市民活動5つに関わる。

祖父母から私、そして我が子へ渡す寺泊への愛

「口下手なんです」と言いながらも、大好きな寺泊や歴史の話になると早口になり、表情が生き生きとする能登昭美（あきみ）さん。寺泊コミュニティセンター主事、そして寺泊の若者が集まり地元の魅力を活かしたイベントを開催している「てらどまり若者会議～波音（はね）～」（以下、波音）のメンバーでもあり、サポーターとしてもプレイヤーとしても活躍しています。

生まれも育ちも寺泊で、新潟市内の大学に進学後も寺泊の実家から通学していたという生粋の寺泊っ子。大学卒業後、新潟市内で就職しますが、ご近所付き合いのない窮屈な生活に次第に違和感を感じるようになりました。「寺泊には当たり前にあったご近所付き合いがなく、隣に住むのがどんな人かもわからない状態。迷惑をかけないように、生活の様々な場面で気を遣ってばかりの生活でした」。住んでいる場所は違っても、いつも想っているのは寺泊のこと。人口減少が進み、徐々に活気を失っていく地元に寂しさを感じつつも、何もできない状況にモヤモヤする日々が続いていきました。しかし2018年、母の闘病をきっかけに自身の生き方を見直し、「私の命を大好きな寺泊のために使いたい」と、寺泊に戻る決意をします。Uターン後は、寺泊コミュニティセンターに勤務。仕事を通して知り合った、波音の代表・木村勝一さんの想いに共感し、メンバーの一員になりました。2022年の出産後も、子どもを抱っこしながらイベントでの募金活動や受付業務を担当することもあるそうです。

「寺泊のためなら、求められたことは何でもやりたくなってしまう」と話す能登さんの活動の根本には、子どもの頃の原体験があります。幼少期、能登さんの祖父母の運営する釣り船業には県外からもたくさんの人が訪れ、まちはとても賑わっていました。活気のある地元を、そしてその活気の一部を担う祖父母を「誇りに思っていた」と言います。「この活気を次世代に残していきたいです。人がいることで温かいつながりが生まれ、地域の歴史や方言など目には見えない魅力を受け継いでいくことができます。自分もその一人として寺泊にいたいし、一緒に受け継ぐ人も増やしていきたいです」。

今日も、子どもたちに体験を通して寺泊の魅力を感じてほしいと活動中。「いつか自分の子どもが大きくなったら、波音のイベントを思い切り楽しんでほしい！頑張ってる母の姿も見せたい！」と夢を話してくれました。

オール寺泊産で日本酒を作る「寺泊酒プロジェクト」の一環で、波音メンバーと一緒に田んぼ作業。

寺泊コミュニティ推進協議会主催のソフトバレーボール大会で、事務局として進行役をする能登さん。

活動の根っこ

未来へ息づく寺泊の魅力でつながる!!

能登 昭美